

## おとなり長野おうえん隊 第 1 回実施報告書

2019 年 11 月 16 日

山梨 YMCA 福田 奈里子

1. 日 時： 2019 年 11 月 16 日（土） 6：30 出発 19：00 帰着
2. 場 所： 長野市北部災害支援センター りんごサテライト 穂保地区
3. 移動ルート： 中央道 昭和 IC→ 長野道 須坂長野 IC → りんごサテライト→活動地
4. 引率者： 大和田浩二（山梨 YMCA 元総主事）、福田奈里子（事務局、山梨 YMCA スタッフ）
4. 当初の活動予定： 富竹グラウンド駐車場→シャトルバスで津野サテライトへ移動→その後現地でマッキング→活動場所へ移動
5. 当日の活動内容： 穂保地区（千曲川が決壊し水が氾濫した住宅地と農園のエリア）住宅の清掃、消毒、りんご畑の掘り起こし
6. 当日の様子： 6：15 集合。人数の確認後 6：30 に YMCA 出発。途中 2 か所（諏訪・松代）でトイレ休憩を入れ、9：15 須坂長野東料金所を降りる。到着場所のナビを間違えてしまい、富竹グラウンド駐車場に着いたのは 9：45 頃。北部災害ボランティアセンターより事前に連絡のあった場所だがシャトルバスが見当たらず、そのまま近隣のりんごサテライトへ行った。現地のスタッフと津野サテライト側で調整後、このままりんごサテライト管轄のエリアで活動を行うことになった。受付にて、名札記名、道具準備。



10：15 りんごサテライトスタッフよりオリエンテーション。穂保地区の地図をもとに、決壊した川の水の通り道になったといわれるエリア（第 1 地区）の住宅清掃をお手伝いすることが説明された。その後徒歩で 1 つ目のチェックポイント（A 拠点）へ移動。2 グループに別れ、近隣の住宅へ向かう。

10：50 活動開始。  
①グループ（L.大和田） 電気機械屋さんの母屋の清掃。床下の泥撤去後の掃除。家主の友人の方と一緒にひたすらふき取り、粉塵の吸引作業  
②グループ（L.福田）りんご農家の母屋の清掃。窓ふきと床基礎部分の消毒、りんご畑の土の除去作業。

10：50 活動開始。

①グループ（L.大和田） 電気機械屋さんの母屋の清掃。床下の泥撤去後の掃除。家主の友人の方と一緒にひたすらふき取り、粉塵の吸引作業

②グループ（L.福田）りんご農家の母屋の清掃。窓ふきと床基礎部分の消毒、りんご畑の土の除去作業。

←（左上）りんごサテライトで案内して下さったのは他市からのボランティア。

←（左中）壁、畳、床、全てはがされた後の泥ふき。

←（左下）畑のりんごは全て処分しなければならない。木の根を覆っている厚い粘土質の土を掘りだし、本来の土を出す作業をした。こうしないと、木に酸素がゆきわたらず枯れてしまう。

→（右）家主さんの女性のできばきとした指示で、作業は順調に進んだ。



15：00 活動終了後、徒歩でりんごサテライト集合。現地ボランティアによる炊き出しでお味噌汁やおにぎり、ぶどうやトマトなどがふるまわれた。とてもおいしかった。

15：45 りんごサテライト発。車内にて全員のふりかえり。19：00 山梨 Y 着。解散。



## 7. 振り返り：（帰りの車内にて振り返りの時間を持ちました。）

- ・初めて災害ボランティアに参加した。センターがとてもよく組織化されていたことに驚いた。案内をしている人たちもまたボランティア。ボランティアがボランティアを支えるということについて考えた。
- ・復興にはまだまだ時間がかかると感じた。人手も必要。作業をしながら、家主の方とお話しできてよかった。ボランティアは初めて。自分で車を運転して行ける自信がなく、それでも何か被災地のためにできることをしたいと探していたところ、YMCAの企画を新聞で知って応募した。参加できて本当によかった。
- ・ボランティアは9月の台風で房総半島に行ってきた。センターは地域によってうまくまわっているところとそうでないところがある。センターでも、高速を降りるときでも「ごくろうさまでした。」「ありがとうございます。」と言ってもらえて、嬉しかった。また頑張ろうと思った。今まで一人でボランティアに行っていたがこうして仲間と一緒に行ける形のもいいと思った。これからも自分にできることをやっていきたい。
- ・災害復興ボランティア派遣をしている団体はないかと探したが、唯一派遣をしているところは、その市町村の住民のみが対象で応募できなかったの、甲府市の社協に問い合わせたところ、山梨YMCAを紹介してもらって参加した。こうして誰でも参加でき、さらに車にも乗せてもらう形で行けるのは本当にありがたい。
- ・自分も災害ボランティアは初めてで、何をすればよいか分からず戸惑ったが、被災者ご自身も、今必要な作業工程などすぐには分からず「何をやってもらえばいいのか」が決められないのではないかと考えた。当事者の方の迷いも含めて対応するということが大切だと思った。
- ・先週個人で長野ボランティアへ行った。そこから、あまり復興は進んでいないという印象。とても時間がかかる大変な作業だと思う。平日のボランティアも調整できたらまた来たい。
- ・YMCAを支えるワイズメンズクラブで活動している。「役に立とう」と思ってやってきているが、それが空回りしないように気を付けたい。今年一番の思い出に残る出来事だった。

8. 所感： 東日本大震災以来8年ぶりのYMCAからのボランティア派遣でした。個人参加でも十分対応できる災害支援センターの機能がありますが、そこに行くまでに至らないボランティアしたい人たちが、相当数いらっしゃることを今回の企画で痛感しました。YMCAは、そういった人たちがボランティアへの一歩を踏み出す機会を提供する役割があるという事を、今回の企画を支えてくださった大和田元総主事が語っておられ、今回の派遣はそういった意味でYMCAの役割—ボランティアのすそ野を広げる—をもって実施できたことに、大きな気づきと学びがありました。参加して下さった方々、お祈りくださった皆様に感謝いたします。

（文責：山梨YMCA 福田奈里子 語学・国際担当ディレクター）